

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 10-1

問1)

次の取引について、勘定科目群から適切な勘定科目を選び仕訳を示しなさい。

建物について定期修繕と改修を行い、代金5,000,000円をヘンリー建設株式会社に小切手を振り出して支払った。なお、そのうちの800,000円は改良（資本的支出）とみなされた。

<勘定科目>

当座預金 ・ 建物 ・ 改良費 ・ 修繕費

解1)

(単位：円)

借方		貸方	

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 10-2

問1)

バスカヴィル社の当期の下記取引について仕訳を示しなさい。

×1年1月1日

建物30,000千円を購入し、その代金は24回に分割して支払うことにし、2ヵ月ごとに支払期日を定めた約束手形を24枚（@1,300千円×24枚）振り出して支払った。なお、購入時に利息に相当する額を前払利息として計上し、手形を決済するたびに、定額法により配分する方法を採用している。

×1年2月28日

1枚目の手形代金1,300千円を当座預金で決済した。

×1年3月31日（決算）

決算につき、建物購入に係る前払利息について、当期の経過期間に対応する1ヵ月分を取り崩す。

解1)

(単位：千円)

	借方	貸方
1月1日		
2月28日		
3月31日 決算整理仕訳		

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 10-3

問1)

次の取引について仕訳を示しなさい。なお、仕訳すべきものが無い場合は、なしと記入すること。

×1年1月1日

本社建物の建設をモーティマー株式会社に発注（総額350百万円）した。工事は来月2月1日から行われる予定であり、当日（2月1日）に手付金を70百万円、×2年1月31日に140百万円、残額を完成時（×3年1月31日の予定）に支払う契約とした。

×1年2月1日

手付金を小切手で振り出して支払った。

×1年3月31日（決算）

決算日に必要な仕訳があれば行う。

×2年1月31日

契約どおり、140百万円を支払った。

×2年3月31日（決算）

決算日に必要な仕訳があれば行う。

×3年1月31日

予定どおり完成し、使用を開始した。契約額の残額を小切手を振り出して支払った。

解1)

(単位：百万円)

	借方	貸方
×1年1月1日		
×1年2月1日		
×1年3月31日（決算）		
×2年1月31日		
×2年3月31日（決算）		
×3年1月31日		

氏名

点数 点/100点

各論演習 10-4

問1)

次の資料にもとづき、セルドンムービー株式会社の当期（×4年4月1日～×5年3月31日）の減価償却費および当期末における帳簿価額をそれぞれ求めなさい。なお、減価償却費の計算において計算上生ずる円未満の端数は切り捨てる。また、過年度の償却は適正に行われている。

<資料>

期末に所有する有形固定資産は以下の備品であり、いずれも耐用年数を5年とする200%定率法により減価償却している。なお、耐用年数を5年とする保証率は0.10800、改訂償却率は0.500である。

	取得日	取得原価	残存価額	償却率	期首減価償却累計額
映写機 	×1年4月1日	1,800,000円	ゼロ	各自計算	1,411,200円
カメラ 	×3年4月1日	1,000,000円	ゼロ	各自計算	400,000円

解1)

(単位：円)

	当期の減価償却費	期末の帳簿価額
映写機		
カメラ		

氏名	
----	--

点数	
	点/100点

各論演習 10-5

問1)

下記、株式会社ベーカーレギュラーズが所有する車両について、当期の減価償却費を計算しなさい。

車両運搬具617,280円について、生産高比例法により減価償却を行う。この車両運搬具の可能総走行距離は150,000km、当期の走行距離は30,000kmであった。残存価額はゼロとする。

解1)

当期の減価償却費（円）

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 10-6

問1)

次の一連の取引について、ケース1とケース2を分けて仕訳を示しなさい。

4月1日

当期首に火災により商品倉庫（取得原価56,000,000円、減価償却累計額33,600,000円）が焼失した。なお、減価償却は間接法で記帳している。

4月8日（ケース1）

株式会社ステープルトン火災保険より、23,000,000円の保険金を支払う旨の連絡があった。

4月8日（ケース2）

上記保険会社より、22,000,000円の保険金を支払う旨の連絡があった。

解1)

(単位：円)

		借方		貸方	
4月1日					
4月8日	(ケース1)				
	(ケース2)				

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 10-7

問1)
次の一連の取引について、勘定科目群から適切な勘定科目を選び仕訳を示しなさい。

×1年4月1日
建物を取得するにあたり、国からの補助金6,172,835円を受け取り、普通預金に入金した。

×1年4月8日
上記補助金に自己資金を加え、ベリル建設より建物30,864,175円を取得した。なお、代金は月末に支払うことにした。この建物については補助金に相当する額の圧縮記帳（直接減額方式）を行う。

×2年3月31日（決算）
当期に取得した建物について定額法（残存価額ゼロ、耐用年数20年）により減価償却（間接法）を行う。



- <勘定科目>
- ・ 国庫補助金受増益
 - ・ 減価償却費
 - ・ 固定資産圧縮損
 - ・ 普通預金
 - ・ 建物
 - ・ 減価償却累計額
 - ・ 未払金
 - ・ 前払金

解1) (単位：円)

	借方	貸方
×1年4月1日		
×1年4月8日		
×2年3月31日 決算整理仕訳		

氏名

点数 点/100点

各論演習 10-8

問1)

次の車両の買換えに係る取引について、勘定科目群から適切な勘定科目を選び仕訳を示しなさい。なお、減価償却費は月割計算による。

×5年9月30日に、営業用自動車（バリモアモーターズのステーションワゴン、取得原価2,000,000円、残存価額ゼロ、耐用年数4年、償却方法は定額法、記帳方法は間接法、取得日は×2年10月1日）を400,000円で下取させて頭金に充当し、新しい営業用自動車（購入価額3,000,000円）を購入した。購入価額と下取価額との差額は毎月末に260,000円ずつ分割で支払うことにした。なお、当社の決算日は3月31日である。



<勘定科目>

- 現金 ・ 車両 ・ 車両減価償却累計額 ・ 未払金 ・ 減価償却費 ・ 固定資産売却益 ・ 固定資産売却損

解1)

(単位：円)

借方	貸方



氏名	
----	--

点数	
	点/100点

各論演習 10-9

問1)

3月末決算日の当社（ステープルトン㈱）の以下の取引について、勘定科目群から適切な勘定科目を選び仕訳を示しなさい。

×1年4月1日に取得した備品（取得原価800,000円）を×5年4月1日に除却した。当該除却した備品の処分価値は150,000円と見積られた。この備品は残存価額ゼロ、耐用年数5年、定額法で償却し、間接法で記帳している。

<勘定科目>

現金 ・ 当座預金 ・ 貯蔵品 ・ 減価償却費 ・ 備品 ・ 減価償却累計額 ・ 固定資産除却損 ・ 固定資産廃棄損

解1)

(単位：円)

借方	貸方